

# 水域の貧栄養化と

# 生態系の応答

～瀬戸内海の例から宍道湖・中海の今後を考える～

我が国の湖沼や半閉鎖性海域では、窒素やリンの総量規制が功を奏し、高度経済成長時代の富栄養化状態を脱し、多くの水域で水質の改善傾向が見られる。しかし、水域内の物質循環が定量的にわかってないため、削減をし過ぎて「貧栄養化」し、水産生物が採れなくなってしまった水域が見られる。そのような事例について、瀬戸内海を例に挙げて説明し、「貧栄養化」に伴う生態系の応答について簡単なモデルを用いて説明する。

講師

広島大学大学院生物圏科学研究科 教授

山本 民次 先生

期日 平成 26 年 7 月 5 日(土)

時間 13:30～15:00

会場 島根県庁 会議棟

入場無料

## プロフィール

昭和 58 年 3 月に東北大学大学院農学研究科博士課程後期単位取得退学後、日本学術振興会奨励研究員、愛知県水産試験場技師、広島大学生物生産学部講師、助教授を経て平成 16 年 4 月 より広島大学大学院生物圏科学研究科教授。環境省「海域の物質循環健全化計画統括検討委員会」委員ほか多数の審議会委員等を務めている。査読付き論文 164 編のほか、著書も『『里海』としての沿岸域の新たな利用』。水産学シリーズ、日本水産学会（監修）、山本民次（編著）：恒星社厚生閣など分担執筆含み 28 冊。



## 県庁舎の配置



主催：中海自然再生協議会 共催：認定NPO法人自然再生センター・島根大学汽水域研究センター

連絡先：中海自然再生協議会事務局(認定NPO法人自然再生センター)〒690-0064 島根県松江市天神町 114 島根大学白潟サロソ内

TEL: 0852-21-4882 FAX: 0852-61-0900 E-mail: info@sizen-saisei.org HP: http://www.sizen-saisei.org/